

世界最先端のビルテクノロジーを日本へ

I T、I o T（モノのインターネット）に関わる設計から施工、サービスまでを一貫通貫で手掛けるため、2020年9月に設立した「X1Studio」。「いまでもまだ『テクノロジーの設計事務所とは何ですか』と聞かれることはあるが、その必要性や理解もだいに浸透してきた」とウィリアム・アチュリ社長は実感する。スマートビル分野で同社が手掛けるソリューションは、会社設立からわずか1年にもかかわらず、スーパーゼネコンや設計事務所などからも一目置かれる。どのようなソリューションを展開しているのか、ウィリアム社長に聞いた。

インタビュー



ウィリアム・アチュリ社長

1998年来日、2008年4月から20年6月まで「株式会社Sanko IB」の代表取締役として12年間務めた。主に商業ビルのI o T化やデータセンターの構築、ホテルなどのスマート化など業界での経験を幅広く持つ。20年9月に「X1Studio株式会社」を設立。使用言語はスペイン語、英語、日本語のトリリンガル。南米・コロンビア出身、50歳。

経営軸線 Management × Axis

I o T、クラウド、A I 駆使してE S C O

背景に、スマートビルディングを実現するためのテクノロジーをつまぐつなぎ合わせることでできている。

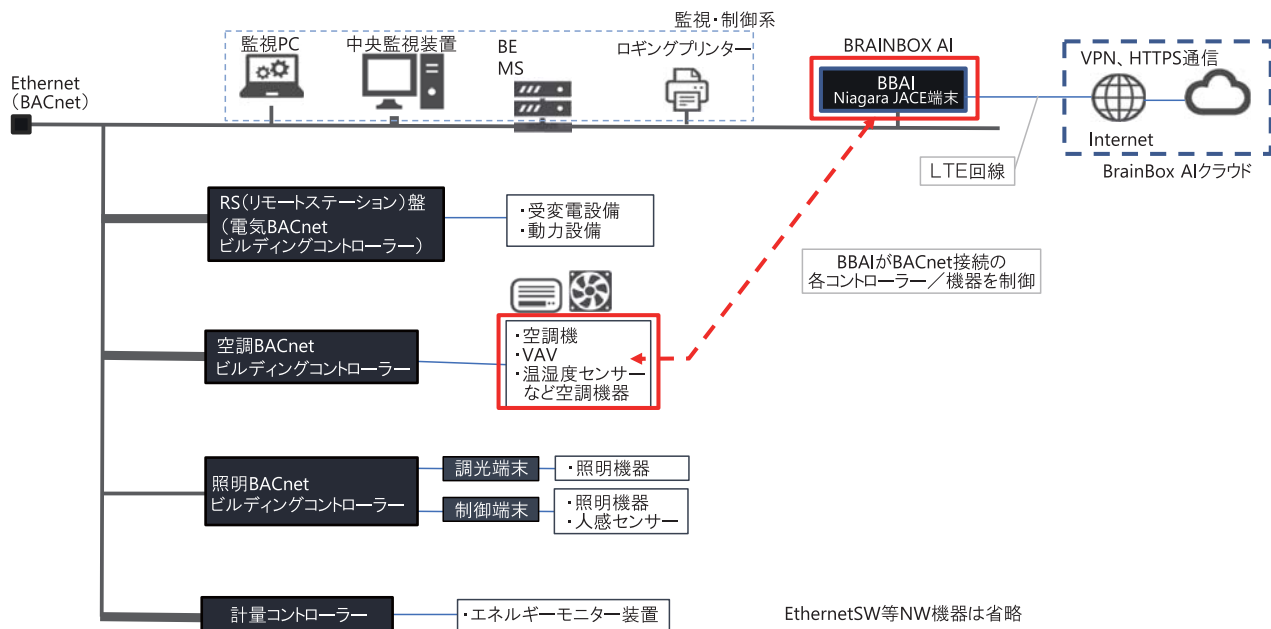
「設計、施工、システムをつなぎ、デバイスやデータなども最適につなぎ合わせるため、私たちが3者の真ん中に入って『テクノロジーを設計』しなければならぬ。そうしたい思いで事業を始めた。当社は『テクノロジーの設計事務所』。スマートビル化するためのテクノロジーやスマートビルでのユーザー体験、オペレーションの効率化などを考え設計している」

——提供中のソリューションは

「現在は、建物に入っているシステムとデバイスがインターネットでつながるI o T、クラウド、A I（人工知能）が駆使できる状況になっている。この3つを合わせた新しいソリューションの1つとして、『ブレインボックスA I』を初期導入費用が無料のE S C O事業として展開している。建物の中で最も電気使用量が多いのが空調だ。ここにブレインボックスA Iの機器を取り付け、A Iによる空調管理で電気代を25%削減し、C O₂の削減も可能になる」

「その仕組みは、A Iが空調に関する建物の特徴を学習

ブレインボックスA Iのネットワーク構成イメージ



し各建物に最適な空調設定を見つける。学習したデータや

他の建物管理システムのデータ、天気情報などを基に建物

の環境変化を予測する。例えば、3分後に太陽がどういう入射角で部屋に入ってくるのか、雲で日射が遮られるのかなど状況を予測しながら、空調システムを5分ごとにリアルタイムで制御できる」

——商業ビル以外での取り組みは

「客室制御システム『my Room』の提供を日本で始めた。海外ではゲストルームマネジメントシステム（G R M S）と呼ばれ、客室内のすべての設備とホテルシステム、そして宿泊客を連動して管理できるシステムとなっている。宿泊客が初めて部屋に入った時には、電動カーテンを開けてウェルカムシーンを演出し、在室時には最適な空調や照明に制御、不在時には使用を制限することで、自動的に快適な空間を実現する。電動カーテンは不在時には閉めて、熱が逃げるのを防ぐなど省エネルギーにも役立つ。自動化は、そのホテル特有の体験をオペレーターの手間をかけることなく、世界各国どこでも同じ体験を提供できる。このため、ホテルオペレーターがサービス品質を担保することを目的に導入する事例が増えてきている」

——今後の展開は

「当社はS D G s（持続可能な開発目標）をミッションと捉えている。世界的な課題であるカーボンニュートラルや、C O₂の削減に貢献したい。その具体的な手段として、A Iを活用した当社のソリューションを提案していく。日本では高齢化とともに生産年齢人口の減少が進んでおり、ビル業界やホテル業界では人手不足の課題を抱えているほか、今後ホテル業界はインバウンド（訪日外国人客）需要の増加に伴う対応も求められる。この環境、人手不足、インバウンドの3つの課題解決に当社のソリューションで貢献していきたい」

G R M Sでホテルの課題も解決

——X1Studio設立の背景を

「この業界に入って感じたのは、3つに隔てられた日本の建設事業の各分野が優秀だ

といつこと。日本の建設会社にもテクノロジーは世界的に優れ、設計事務所も空間や環境のデザインが素晴らしい。システムインテグレーターは、ネットワー

